

2022 年を振り返る

毎年、手帳メモ欄に研究会や会議、原稿タイトルなどを書き留めている。28 日まで
に 151 項目もあった。そのトップは、1 月 7 日に堺筋本町で開催された大阪 IR カジノ
計画「第 1 回説明会」。会場には多くの人が詰めかけ、鋭い質問やヤジが飛びかった。
私も質問しようと挙手を続けたが、一方的な終了宣言で指名されなかった。無性に腹が
立ち、怒りに燃えて夢洲での大阪・関西万博計画とともに、IR カジノ「誘致騒動」に
も集中的に関わるようになった。

その後、大阪市に IR カジノ関係文書を情報公開請求して、市民団体などに提供した。
大阪市が IR 用地対策に 788 億円の公費投入を決定したことに対し、
5 人の市民と住民監査請求した。写真は 6 月 23 日の意見陳述前に
テレビ大阪によるインタビュー。合議不調という請求結果を受けて、
7 月 29 日に差し止めを求めて大阪地裁に提訴した。私もはじめて
原告の一人として活動することになる。



10 月 18 日には原告を代表して、10 分余り「意見陳述」した。
次の写真は、裁判後の報告会(大阪日日新聞)。その翌日に大阪市
に情報公開請求して入手した文書は(表紙だけの拍子抜けする
ものだが)、住民訴訟にも役立ったようだ。万博を含めて、夢洲
問題に明け暮れた 1 年であった。



国家経済研究会はズームであったが、月末の土曜午後で開催
され毎回参加した。背広ゼミも 4 月からは京都で開催されるようになり、長岡京市の図
書館に立ち寄って、西院の宮本憲一先生の研究室に通った。ゼミとその後の懇親会で、
宮本先生の隣で話すことができ、いつもながら刺激
と元気をもらった。国家経済研究会と背広ゼミは、
私の貴重な「居場所」となっている。



美しい庭が見える八尾で開催してきた「やまだ塾」
も、今年末で 20 回を数えることに。大阪市廃止の住民投票に向けた運動が契機なので、
あくどい大阪の維新政治が話題になることが多い。『ジャーナリスト』『月間マスコミ評』
に寄稿した論稿などを話題提供している。

コロナ禍と加齢の影響もあり、腰痛に悩まされているが、なんとか毎日のように大学
の図書館に通い、レポートなどを情報発信してきた。私なりに奮闘努力してきた 1 年だ
ったが、世の中はますます悪くなっており、「危機の時代」と言える状況である。

何と言っても、岸田政権の大軍拡、原発回帰、日本学術会議への露骨な「介入」など、
戦争の足音が聞こえてくるようだ。戦後生まれの私だが、これほど戦争と平和を実感す
る時はなかった。夢洲だけでなく、「危機の時代」の日本についても発信していきたい。

(2022 年 12 月 31 日)